

# 漁業再生を最重要に

## 素案を作成、各地区で説明会



国、県、村の支援に期待を寄せ土俵詰めをする漁業者 (太田名部漁港=関連記事は13頁)

村は普代村災害復興計画の素案（平成23年度～30年度）をこのほど作成しました。産業経済の再建、住民生活の再生、災害に強い村づくりの三つの基本目標を盛り込んでいます。8月10日から開かれた住民懇談会で村民の皆さんに説明し、さまざまな意見を交わしました。

### 一刻も早い復興目指す

同計画の理念には、一刻も早く漁業者を中心とした被災者の生活支援、復興に優先して取り組み、住民生活を一日も早く回復させることを掲げています。さらに村民の安全と安心を取り戻す必要があるとされ、

同計画の理念には、一刻も早く漁業者を中心とした被災者の生活支援、復興に優先して取り組み、住民生活を一日も早く回復させることを掲げています。さらに村民の安全と安心を取り戻す必要があるとされ、

### 8年間で3段階で実施

同計画の基本目標には、①産業・経済の再建②住民生活の再生③災害に強い村づくりの3本の柱を掲げ、復興に取り組みます。

の2年間で、生活や産業の再建に不可欠な住宅、生産基盤、社会基盤などの復旧に加え、再生・発展に向けた準備を進める期間としています。

計画の期間は、平成23年度から平成30年度までの8年間。その8年間で復旧期、再生期、発展期の3期に区分し、段階的に取り組みます。

#### 1 復旧期

復旧期は、平成24年度まで

#### 2 再生期

再生期は、平成26までの4年間で、復旧された社会基盤と住民の力を基に、震災に見舞われる以前の活力を回復し、地域の価値を高めていく期間とします。

#### 3 発展期

最終の発展期には、被災地

村災害復興計画(素案)の住民懇談会は8月10日から25日までの間の6日間、村内の7会場で行われました。同懇談会には述べ97人が参加。災害復興室担当の説明後、参加者は証屋伸夫村長らと意見を交わしました。各会場で出された主な内容をお知らせします。

■黒崎公民館(8月10日、参加者18人)▼ただ復旧しただけではだめ、水産業の復興に向けての取り組みは

答Ⅱハサップ

(食品衛生管理)に対応した荷さばき施設を新港に建設の計画あり▼国の補助の中身が伝わらない。情報も遅い▼停電になっても情報を提供できる施設整備を▼三陸鉄道の早期復旧を▼水門が閉まった場合でも、太田名部く黒崎間を通行できるように道路の整備を▼一刻も早く水門を復旧してほしい。大沢(太田名部)、沢向に堤防を

### 住民懇談会での主な意見① ここを考えてほしい!



丈夫なのか。検証してお知らせ願いたい▼震災後トイレが使用できなくて困った。体育館などのトイレを自由に使用せたり、仮設トイレの設置などをお願いしたい▼震災時に大事な役割を

果たした明神線の今後の方針は 答Ⅱ現在、拡幅を行うには非常に難しい。向野場方面への別ルートを整備したい▼新たな荷さばき施設はどのような計画なのか 答Ⅱ震災前の計画では、3億の予算で平成25年に建設予定だった

■堀内地区漁村センター(8月12日、参加者5人)▼浜の壊れた船はどうするのか 答Ⅱ村で処分する▼市場の側溝が詰まって斜路に水が流

れ出している 答Ⅱ工事発注済▼浜道具を置く場所がない。コンテナを安く買えないものか。倉庫や資機材などの補助の情報があったら流してほしい▼建築制限はあるのか 答Ⅱない▼村外の人で漁業をやりたい人がいるなら、今後受け入れていかなければ担い手はいなくなる。漁協も取り組みをしていかなければならないのではないか

#### 計画期間

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
復旧期							
再生期							
			発展期				

#### 基本目標

- 産業・経済の再建…①産業の再生・復興②雇用機会の創出・失業者への対応③観光の復興
- 住民生活の再生…①社会生活基盤の復旧②生活支援の充実③地域コミュニティの再生
- 災害に強い村づくり…①防災体制の強化②学校施設の安全確保③自助・共助・公助、関係機関等との連携④災害記録の有効活用

# 3 災害に強い村づくり

■防災体制の強化…▶被害を受けた防災行政無線の復旧▶老朽化した防災行政無線をデジタル化へ更新▶東日本大震災を踏まえた地域防災計画、津波避難計画の検証と見直し▶久慈消防署普代分署の新改築整備▶水門の復旧及び改修▶庁舎、避難所などの新エネルギー施設の導入▶普代ダムを利用した小水力発電エネルギーの利活用調査▶避難地・避難所・避難路の再検▶夜間、冬季時の津波に対応した高台公園の整備▶普代浜への防災林の整備▶友好町村との災害時における相互応援に関する協定の締結▶救援物資の備蓄品目・備品数及び調達に係る検証・充実■学校施設の安全確保…▶小学校の高台先行移転を含めた安全対策の検討 ■防自助・共助・公助、関係機関等との連携…▶自主防災組織を中心とした村民参加の防災訓練▶災害ボランティア団体及びその構成員の事前登録体制とネットワークの構築及び育成 ■災害記録の有効活用…▶震災発生及び復興に関する写真や記録、住民の体験談等を収録した記録集の発行やDVDの作成



応急復旧の工事が行われている普代水門

# 復興計画の事業内容

村は3つの基本計画に沿った具体的なさまざまな事業を考えています。事業には漁業施設の復旧や被災者の支援、避難所などの再検討や整備などが盛り込まれています。復興計画の主な事業内容は次の通りです。

## 1 産業・経済の再建

■産業の再生・復興…▶市場での鮮度保持に最低限必要な資機材の応急的な整備▶サケ・マス、種苗生産施設の緊急復旧▶ウニ、アワビの共同採捕または漁協管理の実施に必要な潜水器、海水殺菌装置の整備▶養殖施設、漁船保全修理施設、堀内荷さばき施設、船舶給油施設などの整備▶共同利用する漁船の購入、取得、定置網の取得▶漁場に残る災害廃棄物の調査や撤去を県に要望▶種苗センター等用地造成、整備▶サケ・マスふ化場施設の整備▶普代村漁業協同組合製造加工施設、冷凍・冷蔵施設の整備▶太田名部漁港海岸（大沢地区）の海岸堤防及び沢漁港海岸への海岸堤防の整備（要望）▶アワビ、ナマコ等放流事業及びウニ等蓄養に対する助成 ■雇用機会の創出・失業者への対応…▶離職者等への雇用支援▶農林水産物、食品等の放射性物質の測定調査の実施▶震災による離職者等への雇用支援 ■観光の復興…▶普代浜の施設復旧▶自然遊歩道の復旧 各種イベントの開催、復興イベントの展開



徐々に漁船が並び始めた太田名部港

■白井地区漁業研修施設（8月23日、参加者29人）  
▼防災無線の早期復旧を▼海に出ていけば放送が聞こえない▼災害時のサイレンの鳴らし方、放送の仕方に工夫を▼災害で停電となった場合の対応は 答II 防災無線の復旧事業、デジタル化の事業内で防災無線の電源を確保し対応▼村の財源は大丈夫か 答II 国で最大限の面倒をみる▼白井の港湾の北側防波堤を延長してもらいたい  
▼南側の防波堤の嵩上げをお願いしたい

住民懇談会での主な意見②  
ここを考えてほしい！

■沢向地区コミュニティセンター（8月24日、参加者12人）  
▼デレック周辺の舗装を12月（アワビ時期）までにやっていただきたい▼まついそ第1・第2トンネル内の側溝の整備、トンネル出口のカバーミラーの設置を▼個人で行ったガレキの処理経費は補助対象外と漁協から聞いたが 答II 補助の対象となるので役場に直接請求を▼浜の橋のところが倒れそうになってる 答II 9月に発



普代会場

注、10月ごろ完了予定▼下安家のようにクレーンを回せるようにしてほしい

■芦渡地区多目的集会所（8月25日、参加者4人）  
▼防災林に造林松を使用して、天然松のほうが丈夫だ。また、防災林の混合林化を考えてみては▼計画の8年は長すぎる。復旧、復興は早く終わらせてほしい▼顕彰碑はどうなっているか 答II や

今月は復興計画の素案についてお知らせしました。各地区でさまざまな意見が出されています。いろんな議論の中で妥協点を探せば見えてくるものもあるのではないのでしょうか。村の将来に希望の光をそそぐのは現場だけではできません。浜の現場を知っている皆さんの経験と知識が必要です。みんなのための計画。みんなで考えて実のあるものに行われないようにしたいですね。

## 2 住民生活の再生



がれきが山積みになっている太田名部大沢地区

■社会生活基盤の復旧…▶村道・県道の津波により堆積した土砂、がれきの撤去▶地震及び津波により被害を受けた道路、街路灯の復旧▶津波により被災した漁業集落処理施設の復旧▶三陸鉄道の早期復旧に向けての支援▶水道施設の拡張整備及び老朽管の更新▶水道施設の耐震化、給水タンク及び応急復旧機材の整備 ■生活支援の充実…▶被災者に対する漁業再建等助成金▶被災者の生活支援や各種制度の相談窓口の設置▶災害等によって緊急かつ一時的に生計の維持が困難になった方への資金の貸付▶災害で受けた損害の程度に応じた減免及び徴収猶予▶被災土地（津波）に対する課税免除及び減免▶流失した車両等の課税除外▶被災者に対する雇用対策 ■地域コミュニティの再生…▶避難所の耐震化及びバリアフリー化の推進▶被災地域及び村内全域に対し、コミュニティ活動を支援するための助成金の交付▶旧鳥茂渡小学校の避難所利活用についての検討